

◆レッツ エンジョイ！マイブーム

テニスニモマケズ、コロナニモマケズ

組合本部・国内部 執行部員 藤澤 映歩

日常のなかで、モチベーションをどのように保てばいいのか。私の場合は、社会人デビューとともに始めた硬式テニスである。

はじめは軽い気持ちだった。知らない土地で、知り合いが出来たらいいな。適度に運動する機会があったらいいな。勇気を振り絞り社会人サークルに参加した。週1回なんとなくテニスをして日々を過ごしていたことに満足していた。

半年が経ち、自分の実力を試そうと、小さな大会に参加した。社会人になって初めての試合、中学時代には軟式テニスで良い成績を残していたし、勝てるだろうと安易な気持ちで臨んだが、母親より年配のご婦人方相手に手も足も出ず、最下位という不名誉な記録だけが残った。

その日、私の負けん気に火が付いた。ご婦人方に勝ちたい一心で、テニススクールに通い始め、自主的にコートも確保するようになった。段々とのめり込んでいき、どうしたら上手くなるのかを必死に考え練習を重ねるうち、語り合う友も増えた。

試合に負けた日から半年後、前回と同じ試合に挑む機会が訪れた。テニスコートの上で、ご婦人方を右へ左へと思い通りに振り回し、念願の初勝利を手に入れた。それからは試合で勝つことに喜びを覚え、終業後には基礎練習を繰り返し、休日は試合で実力を試すことで、テニス漬けの充実した日々を送っていた。

ところが2019年12月に突如発生した新型コロナウイルスの感染拡大により、4月には緊急事態宣言が発令され、外出自粛が叫ばれるなか、都内のテニスコートのほとんどは閉鎖となり、唯一無二の心の支えだったテニスが奪われた。

今まで当たり前にかけていたことが突然目の前から消え、テニスどころか、仲の良い友と語り合うことや、大好きな家族に会うこともできなくなった。かつての充実していた日々を失い、強いストレスを感じ、肉体的にも精神的にも疲弊していたと今更思う。

緊急事態宣言が解除されて3カ月が経ち、Go To トラベルにGo To イートの経済対策、「新しい生活様式」と称し、街に再び人が溢れだす。

このまま解放されていいのかと、葛藤が続く毎日。

多くの幸せを求めるより、当たり前の毎日を送れることがきっと幸せ。よく笑い、よく寝て、モチベーションを上げるという日常をもう失いたくはない。試合に勝つことを思い描き自主トレに励み、テニスが楽しめる日々感謝し、今日も仕事がんばろ。

「海員だより」